



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 牟田和恵教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2022, 48, p. 265-270
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/86873">https://hdl.handle.net/11094/86873</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

**【定年退職教授の履歴および主要業績】**

牟 田 和 恵 教授



## 牟田和恵教授

- 1979年3月 京都大学文学部文学科卒業
- 1985年3月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了
- 1987年9月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻後期博士課程退学
- 1987年10月 佐賀大学教養部講師
- 1989年12月 佐賀大学教養部助教授
- 1991年4月 甲南女子大学文学部助教授
- 2001年4月 甲南女子大学人間科学部教授
- 2003年4月 大阪大学大学院人間科学研究科助教授
- 2004年4月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
- 2007年5月 大阪大学大学院人間科学研究科博士号取得

牟田和恵教授は、1979年3月京都大学文学部を卒業後、1985年3月に京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、1987年10月に佐賀大学教養部専任講師に任用され、1991年4月甲南女子大学文学部助教授、2001年4月同大学人間科学部教授などを経て、2003年4月に大阪大学人間科学研究科助教授に着任、2004年4月同教授に着任され、大阪大学男女共同参画・社会学連携室員（2015-2016年）、大阪大学副理事（2015-2016年）などを歴任され、2022年3月31日限りで定年退職するものである。

### 教育・研究に関する功績

この間、牟田教授は、長年にわたり人間科学部・大学院人間科学研究科の学生教育と人間科学の学術的発展に多大な貢献を行った。同教授は、家族社会学、ジェンダー論、フェミニズム研究を専門とし、理論と実証の両面において、また男女協働推進等の社会貢献につながる実践面においても、数多くのすぐれた研究成果を残した。

家族社会学分野においては、歴史社会学的アプローチによって日本における近代家族の形成過程とそれに関わるジェンダーイデオロギーの作動機制を明らかにした先駆者として知られ、なかでも1996年に刊行された『戦略としての家族—近代日本の国民国家形成と女性』（新曜社）は、現在なお引用・参照されることの多い基本重要文献のひとつにもなっている。このような家族問題・ジェンダー問題への深いコミットメントは、研究者キャリアの初期に取り組みされていた社会運動論とも接合され、現代社会における女性運動やセクシャル・ハラスメント等の研究へと展開される。

この研究領域においては、専門書として『実践するフェミニズム』（2001年、岩波書店）、『ジェンダー家族を超えて』（2006年、新曜社）、『ジェンダー・スタディーズ』（編著、2009年、大

阪大学出版会)、翻訳書として『女たちの絆』(D. コーネル、共訳、2005年、みすず書房)、『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』(E. キテイ、2010年、白澤社)等々、多数の重要な研究業績を公刊しているほか、『知っていますか?セクシュアル・ハラスメント一問一答』(共著、1999年、解放出版社)、『部長、その恋愛は、セクハラです!』(集英社新書、2013年)、『ここからセクハラ!アウトが分からない男、もう我慢しない女』(集英社新書、2018年)などの出版や新聞雑誌への寄稿、テレビ番組出演をとおして、一般市民向けの社会啓発にも精力的に取り組まれている。

また研究成果の国際発信に関しても、英語での編著(Gender Politics of War Memory: The Asia-Pacific and Beyond, Osaka University Press, 2012)をはじめ、海外学会等での招待講演も16本に上り、Current Sociology誌64巻4号掲載の論文(The “Comfort Women” issue and the embedded culture of sexual violence in contemporary Japan, 2016)では、発行者の国際社会学会によって2017年3月のSociologist of the Monthに選出されている。

牟田教授の編集・企画した『ジェンダーで学ぶ社会学』(共編著、1998年、世界思想社)、『ジェンダー・スタディーズ』(編著、2009年、大阪大学出版会)などの入門書・教科書はまた、公刊以来コンスタントに版を重ね、新規改訂版も出版されるなど、この分野の必読テキストとなっており、これらを読んだことが契機となって大学院進学を志した学生も数多い。加えて上記の『ジェンダーで学ぶ社会学』や『家族を超える社会学』(編著、2009年、新曜社)などでは、牟田教授の指導した大学院生やポストクの論考も多く掲載され、大学院教育の一環としても優れた教育効果をもたらしている。

牟田教授は、2003年4月に大阪大学大学院人間科学研究科社会環境学講座に着任以来、学部の「家族社会学」「ジェンダー論」などの講義科目、演習、実験実習科目を担当し、多数の学部生の卒業論文指導にあたってきた。また、共通教育における基盤教養科目「ジェンダーと社会」などを通じて、全学的な教育および学生の啓発にも多大な貢献を行ってきた。これまでに主指導教員を務めた大学院生は50名近くに上り、数多くの優れた研究者および社会人を輩出している。

#### 学内外における功績

研究科内においては、出題等委員、ハラスメント相談室相談員、等々を歴任され、また、2019年4月からは男女協働推進センターの兼任教員を務めて、全学的な男女協働の推進・啓発にも貢献している。

学外での功績・活動としては、豊中市や尼崎市などの自治体において男女共同参画・協働推進関連の委員を数多く務めてきた。学術関連では、日本社会学会(2015-2021年、庶務理事)、国際社会学会(2008-2014年)、関西社会学会(2004-2007年、2010-2013年、理事)、比較家族史学会(1998-2000年、2004-2021年、理事)、日本女性学会(2000-2004年、2008-2010年、2019-2021年、幹事)などの要職を歴任し、学会の発展に大きな功績を残した。また、

日本学術振興会では、特別研究員等審査会専門委員(2004-2006年、2007-2009年)、研究費委員会専門委員(2007年、2011-2012年、2017-2018年、2018-2019年)および学術システム研究センター専門研究員(2012-2015年)などを歴任し、日本学術会議の連携会員(社会学分科会・ジェンダー学分科会、2006-2020年)、独立行政法人大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会の専門委員(2007-2008年)も務めた。

以上、牟田教授は、大阪大学人間科学研究科と大阪大学のみならず広く日本の学術研究・教育・社会に多大な貢献を行ったものである。

## 主 要 業 績

## 主要著書

1. 牟田和恵 . 1996. 『戦略としての家族——近代日本の国民国家形成と女性』 新曜社
2. 牟田和恵 . 2001. 『実践するフェミニズム』 岩波書店
3. 牟田和恵 . 2006. 『ジェンダー家族を超えて』 新曜社
4. 牟田和恵 (編) . 2009. 『家族を超える社会学』 新曜社
5. Kazue Muta and Beverley Yamamoto (eds.). 2012. *Gender Politics of War Memory: The Asia-Pacific and Beyond*, Osaka University Press.
6. 牟田和恵 . 2013. 『部長、その恋愛は、セクハラです!』 集英社
7. 牟田和恵・岡野八代・丸山里美 . 2021. 『女性たちで子を産み育てるとのこと——精子提供による家族づくり』 白澤社

他 12 冊

## 主要学術論文

1. 牟田和恵 . 1986. 「運動の形成と資源動員論」『ソシオロジ』 30 巻 3 号 : 57-76.
2. 牟田和恵 . 1990. 「明治期総合雑誌にみる家族像——『家庭』の登場とそのパラドックス」『社会学評論』 41 巻 1 号 : 12-25.
3. 牟田和恵 . 2006. 「フェミニズムの歴史からみる社会運動の可能性——「男女共同参画」をめぐる状況を通しての一考察」『社会学評論』 57 巻 2 号 : 292-310.
4. 牟田和恵 . 2010. 「依存から出発する正義と平等」『現代思想』 38 巻 14 号 : 135-141.
5. Kazue Muta. 2016. The 'Comfort Women' issue and the embedded culture of sexual violence in contemporary Japan. *Current Sociology*, 64(4): 620-636.

他 57 編